

令和 2 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教養教育院 特任講師
氏 名 福田 知子

活動テーマ	三重大学平倉演習林で過去に採集された昆虫標本の市民によるカタログ化
実施期間	平成30年 4月 1日 ~ 令和 3年 3月 31日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>活動の場となる三重県総合博物館において、月1,2回のペースで、1980年代の採集品から順に標本化を行い、標本として半永久的保管が可能な形にしてから同定作業に入る、という方針で活動を進めた。これまで市民・学生の参加により、順次標本化が進められ、約3,000個体の標本化が完了している。採集品は灯火に集まる昆虫を採集しているため、ガや小さい甲虫が多く、中には、1-2mmサイズの昆虫50~100個体が1つの薬包紙に包まれていることもあった。3年目はコロナの影響で博物館での活動が思うように進まなかったが、今後も活動の継続を予定している。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>三重県総合博物館では毎月、市民による昆虫調査が行われているが、この調査の参加者を中心に本活動への参加者が広がっている。この活動に関心を持つ人が増えることで、今後博物館を中心とした市民活動が盛んになることが期待される。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>進捗状況については申請者が毎月三重県総合博物館を訪問して活動状況を把握するとともに、共同研究者と具体的な進め方について随時話し合いを行っている。本活動を継続する方法についても相談中である。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり</p> <p>本プロジェクトに参加することで、初めて昆虫標本を作製する学生もおり、本活動での昆虫の標本作成を通じて、生物多様性情報の作成・整理についての基礎的な知識・考え方に触れ、実践することができるようになると考えられる。標本作製中にも、学生同士で、それらの昆虫が「何の仲間か」「どれが同種か」、など、分類学的な興味に基づく話題が聞かれた。今後、標本化の一段落した分類群から同定を進める予定であるが、その過程で新種・希少種など新たな発見が得られる可能性がある。また、1980年代からの標本を整理することで、現在の平倉演習林の昆虫相の比較という観点からも研究成果が期待される。</p>

(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等)

1) 2019年3月2日から4月5日まで、三重県総合博物館のミニ企画展として本活動を紹介した。活動の内容の説明以外に、活動風景の写真や、成果としての標本が展示された (本報告書3枚目の写真参照)。

2) 2019年9月1-5日まで京都市で行われた国際博物館協会 (ICOM) https://en.wikipedia.org/wiki/International_Council_of_Museums の京都大会 <https://icom-kyoto-2019.org/jp/> のサテライトシンポジウムにおいて、以下の題名でポスター発表を行った。

Insect pinning project in collaboration with Museum and University
(大学と連携した博物館の昆虫標本整理の一例)

発表者: 大島康宏、森田奈菜、福田 知子

シンポジウムでは博物館関係者と、標本の在り方、標本化の進め方などについて議論を行った。

なお、本ポスター発表は標本化における新たな提案として博物館関係者の間でかなり話題となり、本取り組みについて、別の機会にも発表してほしいという依頼があった。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

現在までの所、市民・学生の協力を得て、約3,000個体の標本化が完了している。参加者の中には、初めて標本を作る人も多く、標本作成に実際に触れる機会として本プロジェクトが果たしている役割は大きいと考えられる。今後、標本化が終わった分類群から同定作業に入る予定である。

* 活動内容に関する写真を添付

- 1) 活動の様子 (2枚)
- 2) 博物館での展示の様子 (2019年3月2日~4月5日)
- 3) 国際博物館ポスター (別添)
- 4) チラシ (別添)



採集品の箱を開けたところ.



標本化の作業の様子

だいがく れんけい こんちゅうしりょう ひょうほんか
大学と連携！昆虫資料、標本化プロジェクト

「三重大学平倉演習林夜間昆虫調査資料」



三重大学生物資源学部附属施設演習林 夜間調査に使用されている平倉演習林コレクション

三重大学生物資源学部附属施設演習林（通称：平倉演習林）の1966年から1986年までの20年かけて得られた昆虫資料。当時演習林に勤務されていた島地岩根助教授が、夜間、演習林の宿舎に飛来した昆虫を収集していた膨大な資料群。残念ながら標本化されていない状態で蓄積されており、活用のためには標本化が必須である。今年度、同大学の福田知子講師の協力により標本化が始まった。標本になっていない資料が、標本へと整理されている段階である。展示期間中にも整理作業を進める予定で、空の標本箱が次第増えていく様子をご覧いただきたい。

この資料から何がみえてくる？

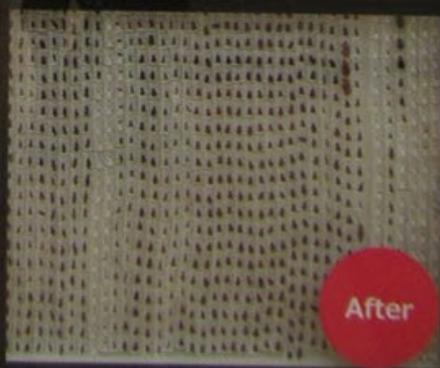
標本になっていないが、重要かつ基本的な自然史情報が明確な資料群。現在、県民や学生の力も借りて標本化が進んでいるが、まだまだ膨大な時間と労力が必要。整理されれば、生物目録やレッドデータリストの作成に役立つだけでなく、収集されてきた20年間の環境変化を探ることや、再調査によって現在の環境との比較も可能になる。



標本を分けているところ



Before



After

三重県総合博物館のミニ企画展における本活動の紹介

Insect Pinning Project in collaboration with Museum and University

大学と連携した博物館の昆虫標本整理の一例

Yasuhiro OHSIMA*¹, Nana MORITA*¹, Tomoko FUKUDA*²

¹ Mie Prefectural Museum, ² Mie University

大鳥 康宏*¹・森田 奈菜*¹・福田 知子*² (¹三重県総合博物館・²三重大学)

Huge insect specimens (approximately ca. 0.5 Million specimens) has been collected in Hirakura Experimental Forest of Mie University between 1966 to 1986, but they are not yet pinned. Mie Prefectural Museum launched "Hirakura Insect Pinning Project" in 2018 in cooperation with Mie University. The project aims to make these insects available as standard specimens for the inventory and taxonomical studies. Amateur people join this project and it a good opportunity to deepen their understanding about natural history.

Project

This is a 3-years project (2018-2020), funded by "Fund for supporting local cooperation" of Mie University.



Hirakura insect collection will provide a standard reference for insect fauna of broad forest typical of northern part of the Kii Peninsula.

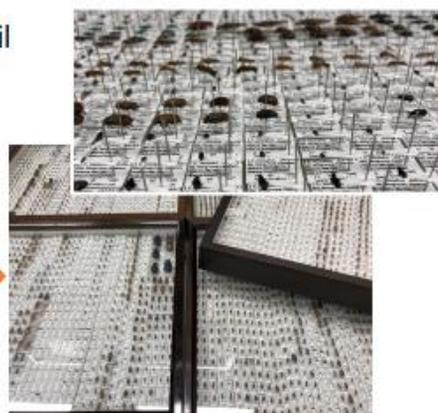
Collection

The collection is temporally named as "SHIMAJI collection", named after Dr. Iwane SHIMAJI, an assistant professor of the Forest at this period. So far, they are without pinned.



Activity of the Project

One person can pin about 100 individuals in half a day. Until now, more than 5,000 individuals were pinned by citizens and students, mainly for the collection of 1980.



Many amateur people join the pinning work. Thought dialogue with academic staff (curator) during the work, they got deeper understanding about natural history. Thus the project gives impetus for one of the missions of Mie Prefectural Museum, i.e., give more opportunity of life-long learning for the citizens of the prefecture.

「島地コレクション」は、三重大学生物資源学部附帯施設演習林（通称 平倉演習林）で島地岩根氏（当時：演習林助教授）が1966年から1986年までの20年間に採集した膨大な昆虫コレクションであるが、未標本状態である。このコレクションを収蔵する三重県総合博物館は、三重大学と共同で「平倉昆虫標本整理プロジェクト」を立ち上げた。現在、市民や三重大学の学生がコレクションの標本化に取り組んでいる。今後整理が進めば、当時の三重県周辺の昆虫相を推定する上で非常に貴重な資料となると考えられるだけでなく、プロジェクトに参加している学生、市民が学芸員との対話を通じて自然科学への理解を深める機会としても活用している。本事業は三重大学地域支援事業「三重大学平倉演習林で過去に採集された昆虫標本の市民によるカタログ化」による助成を受けている。

昆虫整理,しませんか？

昆虫資料の「標本化」プロジェクト



整理する昆虫

整理する昆虫は、三重大学生物資源学部附属施設演習林(通称:平倉演習林)の1966年から1986年までの20年間に得られた昆虫で、現在、三重県総合博物館に寄贈されています。当時、演習林に勤務されていた島地岩根助教授が、夜間、演習林の宿舎に飛来した昆虫を集めたものです。

なぜ標本にするの？

三重県総合博物館には、新聞紙で包まれた状態で寄贈されていますが、このままではどんな昆虫がいるかわからず、どういう名前の昆虫かを調べるのも大変です。標本にしたら、誰でもみられるようになるし、正しく保存・活用ができるようになります。

この資料から何がわかる？

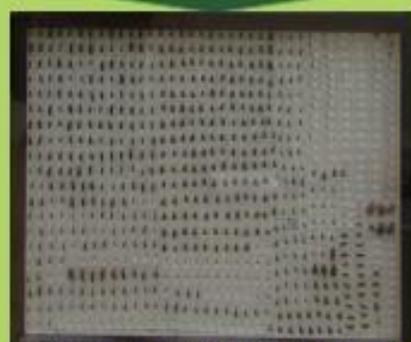
この資料は、当時の20年間にどんな昆虫が居たか？を示す貴重な資料です。整理されれば、生物目録やレッドデータリストの作成に役立つだけでなく、その20年間の昆虫相の変化を探ったり、現在の昆虫相と比較したりなどいろいろな使い方ができます。



作業風景



現在の状態(新聞紙に包んである)
標本にすると…



ラベルをつけて標本箱に収納される

参加者の感想

- ・家にも眠るので来てみたのですが、虫って、こんな風に整理するの！と分かって驚きました。
- ・学芸員や学生の皆さんの話をきくのが新鮮で面白いです。
- ・毎回、博物館に来るのが、いい気分転換になります。
- ・これから昆虫学をやりたいのですが、昆虫標本のつくりかたやラベルの書き方など、勉強になります。
- ・自分の勉強にもなるし、お小遣いももらえるので助かります。

問い合わせ先: 電話. 059-231-9833 ファックス. 059-231-9353

Email. Fukuda@ars.mie-u.ac.jp 三重大学教養教育院 福田 知子

作業場所: 三重県総合博物館 (MieMu: みえむ) 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田3060

＊本プロジェクトは平成31年度三重大学地域貢献活動支援事業「三重大学平倉演習林で過去に採集された昆虫標本の市民によるカタログ化」によるものです。